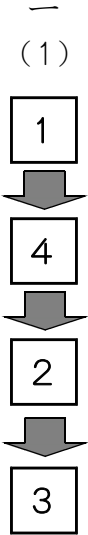


小学校第五学年 国語 「短歌を読む」

○ 正答例



(2)

(見出し)

なみだをこらえる茂吉

母の死をとむらう茂吉

など

(理由)

母を失った悲しみと、火そうしななければならない悲しみの涙を空を見上げてこらえている。茂吉は深く悲しんでいる。だから、「なみだをこらえる茂吉」という見出しにした。(七十九字)

この短歌は、亡くなった母親をとむらう茂吉の悲しみを表している。母と別れたくないが、それでも「焼かねばならぬ」のだ。だから、「母の死をとむらう茂吉」とした。(七十七字)

○ この問題で身につけてほしい力

○ 短歌にこめられた作者の思いを読み取る力。

○ 考え方

一 (1) 1は、母親の命が危ないと知った斎藤茂吉が、ふるさとへ急いでいる様子を表しています。

2は、亡くなったお母さんを火葬する様子です。

3は、山の火を見て、母をとむらった火を思い出している様子です。

4は、ふるさとに帰り着いた茂吉が、亡くなりそうな母親に会い、ひたいをさすっている様子です。

このように見ていくと、順番は「1 ↓ 4 ↓ 2 ↓ 3」となっていると分かります。

(2)

村田さんの書いた見出しには、次のルールがあります。

茂吉の行動を書き、「茂吉」と体言止めになっている。

ここでは、「他の見出しの書き方に合わせて」とありますから、短歌の(大意)をもとにまとめていきます。

理由は、次のような書き方でまとめるとよいでしょう。

○ 短歌の内容のうち、茂吉の心情の根拠となるもの

母を失った悲しみと、火そうしななければならない悲しみの涙を空を見上げてこらえている。茂吉は深く悲しんでいる。だから、「なみだをこらえる茂吉」という見出しにした。(七十九字)

○ 読み取った茂吉の心情

○ 短歌の内容のうち、茂吉の心情の根拠となるもの

この短歌は、亡くなった母親をとむらう茂吉の悲しみを表している。母と別れたくないが、それでも「焼かねばならぬ」のだ。だから、「母の死をとむらう茂吉」とした。(七十七字)

○ 結論

から、「母の死をとむらう茂吉」とした。(七十七字)

斎藤茂吉は、歌人であり、医者でもあった人です。ここでの「みちのく」は出身地の山形県を表しています。

茂吉がのこした多くの短歌の中でも、「死にたまふ母」の五十九首は素晴らしいと高く評価されています。

でも、なぜ「五十九首」なのでしょう。理「死にたまふ母」の他の短歌も読みながら、理由を考えてみるのもいいですね。

